



「排泄ケアお役立ち情報」をご活用ください。

光洋

検索

<http://www.koyo.jp>



「おむつナビ」と「眠りCONNECT」が連携

株式会社光洋のおむつナビ（排尿検知センサー）、三和株式会社の介護Plus（排泄支援システム）と、パラマウントベッド株式会社の見守り支援システム「眠りCONNECT」が2026年4月よりシステム連携を開始しました。

おむつナビ・介護Plus

おむつナビ・介護Plusは専用の尿取りパッドにセンサーを装着することで、パソコンやタブレットなどに利用者の排尿データが表示できるシステムです。パッドの尿吸収状況が、おむつを開く事なく確認できるので適切なタイミングでケアを行えます。取得した排尿データはグラフ化され排泄ケアのアセスメントにも役立ちます。

眠りCONNECT

眠りCONNECTは、パラマウントベッド株式会社がリリースしている眠りSCAN（体動センサ）で測定した情報を用いて利用者の見守りを支援するシステムです。利用者の睡眠・覚醒・離床などの状態を端末のリアルタイムモニター画面で確認でき、利用者の状態に合わせたケア・見守りが可能になるとともに、スタッフの業務効率にも貢献します。

リアルタイムでモニター画面に一括表示

近年、移乗・排泄・見守りなど、様々な介護テクノロジーが現場の業務改善や生産性向上に活用されていますが、一方で「導入機器ごとに端末や管理画面が異なり、操作にストレスを感じる」という課題も浮き彫りになっています。

こうした課題を解決するのが、「おむつナビ」「介護Plus」「眠りCONNECT」の3システムによる連携です。

導入による3つのメリット

情報の集約化：利用者の睡眠・覚醒状態と、尿取りパッドの濡れ具合を同一画面でリアルタイムに把握できます。（図1）

適切なタイミングの通知：パッドの吸収量がぎりぎりになると「眠りCONNECT」にお知らせが届くため、交換が必要な方を一目で特定できます。

心理的負担の軽減とケアの標準化：「安眠を妨げたくない」という配慮と「もれへの不安」という現場のジレンマを解消。スタッフの経験を問わず、「今、交換すべきか」をデータに基づき的確に判断できるようになります。（図2）



（図1）眠りCONNECTリアルタイムモニター画面

睡眠と排泄の相互関係

排泄は自律神経（交感神経・副交感神経）によって機能しているため、自律神経を整える睡眠とは、密接に関係しています。

【深い睡眠による排泄メリット】

- ・尿の生成を抑える抗利尿ホルモンが多く分泌され安眠を支えてくれる
- ・自律神経が整い、腸や膀胱に覚醒刺激をおくり排泄を促してくれる
- ・免疫力が高まると腸内環境や便通が整う

【浅い睡眠による排泄リスク】

- ・わずかな尿意でも目が覚めてしまい、日中の眠気や活動低下がおこる
- ・夜間の腸内の修復や細菌の増殖が妨げられ、便秘下痢を引き起こす
- ・不十分な覚醒により、トイレ移動時の転倒リスクを引き起こす

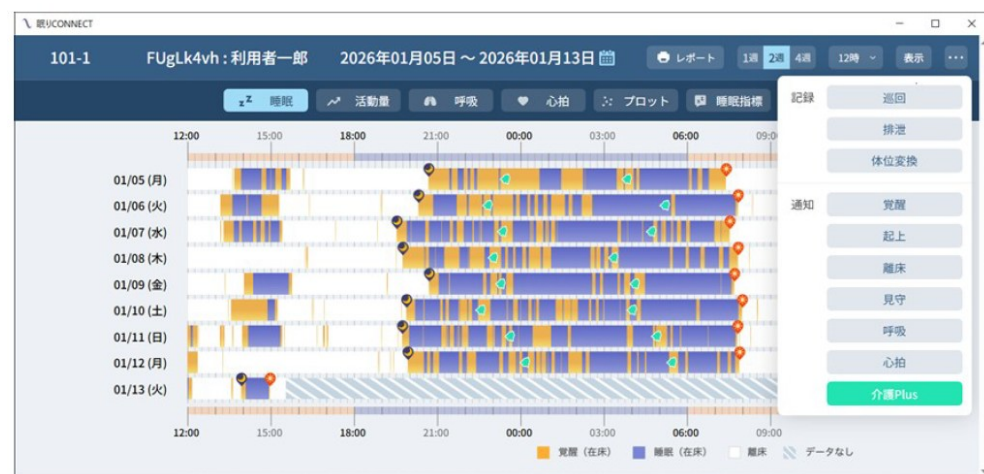
「眠り」と「排泄」の統合で見える新しい介護のカタチ

介護現場において、夜間頻尿や多尿による「眠りの質」の低下は、ご利用者の生活の質（QOL）に直結する重要な課題です。しかし、職員一人で複数のご利用者を担当する多忙な環境下では、個別の睡眠・排泄リズムを正確に把握し、分析することには限界がありました。

今回の眠りCONNECTとおむつナビの連携により、睡眠と排泄の記録を自動で統合して情報を「点」から「線」へとつなぐことで、画一的な定時介助を一人ひとりのリズムに合わせた「適時」のケアへと進化させ、現場の事務負担を減らしながら職員が本来の価値である「対人ケア」に専念できる環境を実現します。

利用者の気持ちの良い「おはよう」のために

情報を繋ぎ「点」から「線」へ、定時を「適時」のケアに変え、負担を「価値」へ転換します。利用者の笑顔と職員の余裕こそが生産性向上のカギとなり、ケアの質を高めます。施設の真の向上に、ぜひ本仕組みをお役立てください。



（図2）眠りCONNECT睡眠日誌のイメージ

さがみロボット産業特区のサイトにて、おむつナビに関連するインタビューが掲載されました。

ロボット導入事例インタビュー 介護老人福祉施設 わかたけ富岡様
https://sagamirobot.pref.kanagawa.jp/robot_casestudy/interview202601.html

知っておきたい！高齢者の脱水症～予防のための小さな気づきと工夫～

「最近、なんとなく活気がない」「いつもより少し口の中が乾いているかも……」。そんな現場での『小さな違和感』が、利用者様の健康を守る大きな鍵となります。今回は、これからの季節に特に注意が必要な『脱水症』について特集します。

脱水症の基礎知識

私たちの体の約50～60%（高齢者の場合は約50%）は、単なる水ではなく塩分などを含む「体液」でできています。脱水症とは、この体液が不足した状態です。一口に脱水と言っても、「水分不足」だけでなく、**下痢や嘔吐で「塩分」も一緒に失われるタイプがあり、その両方が足りなくなることも珍しくありません。**

本人が喉の渇きを感じにくい「かくれ脱水」は、現場での小さな異変に気づくことが予防の第一歩です。プロの介護職として知っておきたい知識と、現場での対応ポイントをまとめました。

●高齢者が脱水症になりやすい4つの原因

高齢者の体は、本人が気づかないうちに水分不足に陥りやすい特徴があります。主な原因は以下の4つになります。

①筋肉量（貯水タンク）の減少

体の中で最も水分を蓄える「筋肉」が減るため、体内の水分予備量が少なくなっている。

②「渇き」を感じにくい

脳のセンサーが鈍くなり、脱水が進んでいても「喉が渇いた」と感じにくくなる。

③尿の量が増えやすい

腎臓の機能低下により、水分を体内に留めておく力が弱まり、尿として排出されやすくなる。

④トイレへの不安

「夜間のトイレ」や「失禁」を心配して、無意識に水分を控えてしまう心理的要因も大きく影響する。

●脱水が引き起こす「二次被害」に注意！

単に「喉が渇く」だけでなく、高齢者の場合は以下のような深刻な病気の引き金になることがあります。

- ・脳梗塞・心筋梗塞：血液がドロドロになり、血管が詰まりやすくなる。
- ・意識障害・転倒：脳への血流が減り、ふらつきや転倒による骨折のリスクが高まる。
- ・腎機能障害：老廃物を排泄できなくなり、体に毒素が溜まる。

高齢者の脱水予防のためのポイント

1. 「喉が渇かない」のが一番のサイン

高齢になると、前記の4つの原因でも書いたように脱水の症状が出ていても「喉が渇いた」と感じていない可能性があります。「喉が渇いていないから大丈夫」は禁物です。喉の渇きを感じたときには、すでに脱水が始まっていると考えましょう。コミュニケーションを行いながら、水分補給を促しましょう。

2. 脱水のセルフチェック

簡単に確認できる、脱水の初期サインです。

部位	チェック項目
口の中	舌が乾いている、唾液が粘つく
皮膚	手の甲を軽くつまんで離したとき、形がすぐに戻らない（ハンカチーフサイン）
排泄	尿の色が濃い（茶褐色に近い）、回数が極端に少ない
精神面	いつもよりボーッとしている、活気がない、急に怒りっぽくなる
身体	脇の下が乾いている（通常は湿っている）、微熱がある

3. こまめな補給

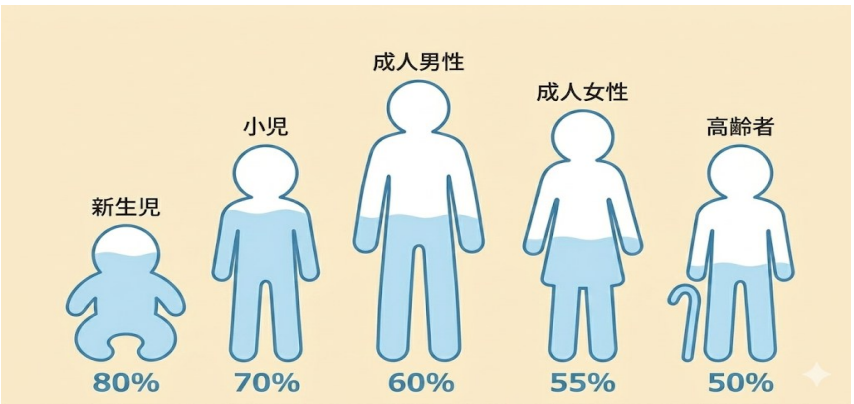
一度にたくさん飲むのではなく、「コップ1杯（約120～150mL）を1日8～10回」などこまめに分けるのが理想的です。

4. 飲み物選び

基本は水・麦茶がおすすめです。カフェインを含む緑茶やコーヒー、紅茶などが好きな場合には利尿作用（水分を外に出す力）があるため、それとは別にカフェインを含まない水分も併せて摂ることが大切です。また飲み物を飲むのが苦手という方はゼリーやフルーツ、水ようかんなどおやつで工夫をしてみましょう。

「一緒に美味しいお茶を飲みませんか？」そんな何気ない一言が、脱水症を防ぐ最高のお薬になります。

利用者様の表情や尿の色など、日々の介助の中にあるサインを大切にしながら、安心できるケアを届けていきましょう。



厚生労働省『熱中症予防のための情報・資料』などを参考に作成

マイスター認定おめでとうございます！！

2026年3月17日認定（2期生）
社会福祉法人 和光会
特別養護老人ホーム
ナーシングケア寺田

岡田知子様
廣澤莉紗様
山月明日香様

平野晶宣様
矢口麻衣子様

2026年5月12日認定（4期生）
医療法人 光陽会
関東病院

関 陽子様
鈴木 郁子様
對馬 慧人様
廣田 琴乃様

佐藤 妃書様
橋本 文江様
蔡 慧蓉様
飯野 栄一様

2026年5月15日認定
医療法人 誠和会
有料老人ホーム
せいわ

赤澤 恵美様

小林 悟 様

2026年5月15日認定
医療法人 誠和会
介護老人保健施設
福寿荘

藤井 由美子様

田中 大也 様